



ROCK PAINT

092ライン

水性エパーロック®

一液反応硬化型合成樹脂エマルジョンペイント

●低VOC (日通工日標基準)
1%以下クリアー

●低臭タイプ

●ヤニ・シミ止め

●シーラーレス

●鉛などを配合せず

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

居室内で無制限に使用できます。

国土交通大臣認定

認定番号	区分
NM-8585	不燃材料
QM-9816	準不燃材料
RM-9364	難燃材料

塗料塗装
(一社)日本塗料工業会

非トルエン・キシレン塗料

(一社)日本塗料工業会 室内環境対策の
VOC自主表示ガイドライン~「非
トルエン・キシレン塗料」~に適合



ロックペイント 株式会社

省エネルギー対策のために、空調効率を高めた現代の住宅環境。
 かつて自然の素材を活かして造られた日本の住まいも、
 新しく機能的な建築材料の誕生とともに、
 一段と気密性を増し、変化があらわれました。
 そういった室内環境に対して、少しでもお役立てるよう
 水性エバーロックは、ヤニ・シミ止め効果を持ち、
 耐久性のある「エバーロック」の特長を活かし、
 低VOCかつ低臭の水性化に成功した、
 室内環境対応のつや消しエマルジョンペイントです。

特長

1. 室内環境対応

VOC量は(一社)日本塗料工業会の目標基準1%以下を達成。また、低臭設計のため、居住中の住宅や、営業中の店舗、事務所等の室内塗装に最適です。

2. すぐれた付着性・透湿性

特殊一液反応硬化型のエマルジョン樹脂を採用しており、下地や各種旧塗膜との付着性にすぐれています。また、透湿性が良く、ふくれやはがれが生じにくくなっています。

(注)特殊な下地など、条件によってシーラーが必要な場合があります。

3. ヤニ・シミ止め効果

従来の水性塗料では抑えることが困難なタバコのヤニや水性のシミなどの軽微な汚れは、直接塗装して止めることができます。

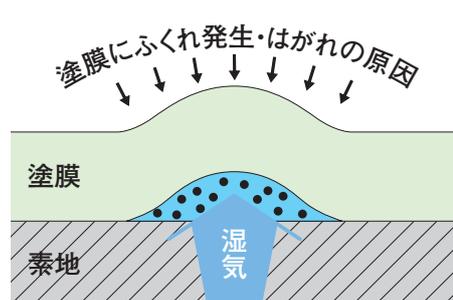
(注)著しく汚れたヤニやシミは、完全には止まりませんので注意事項をよく読んでから使用してください。

4. 汚染除去性、防藻・防カビ性

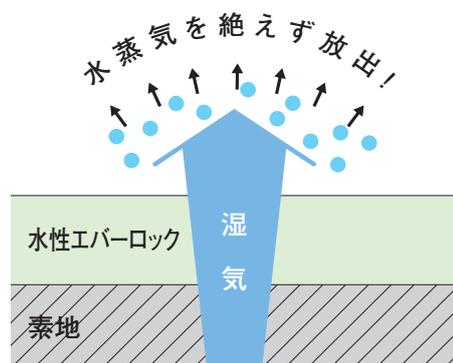
一液架橋型で硬く緻密な塗膜を形成するため、汚れが内部まで浸透しにくく、汚れても比較的簡単に拭き取ることができます。また、防藻・防カビ剤が配合されているため、長期にわたり住環境を清潔に保ちます。

透湿性のメカニズム

～ 従来の塗料 ～



～ 水性エバーロック ～



すぐれた透湿性により、塗膜内部からの水蒸気を絶えず放出するため、ふくれやはがれが起きにくくなります。

室内環境に対する取り組み

■厚生労働省勧告の揮発性有機化合物の室内環境濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値*2(気中濃度*1)	水性エバーロック
ホルムアルデヒド	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.08ppm)	適合
トルエン	260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm)	配合せず
キシレン	200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05ppm)	配合せず
パラジクロロベンゼン	240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	配合せず
エチルベンゼン	3800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.88ppm)	配合せず
スチレン	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05ppm)	配合せず
クロルピリホス	1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppb) 小児の場合 0.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.007ppb)	配合せず
フタル酸ジ-n-ブチル	17 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (1.5ppb)	配合せず
テトラデカン	330 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	配合せず
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (6.3ppb)	配合せず
ダイアジノン	0.29 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppb)	配合せず
アセトアルデヒド	48 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.03ppm)	配合せず
フェノブカルブ	33 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (3.8ppb)	配合せず

2019年6月現在

※1 25℃の場合 ppm；100万分の1の濃度 ppb；10億分の1の濃度。

※2 μg ；100万分の1の重さ。濃度1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ は1 m^3 の空間に1 μg の化学物質が存在することになる。

■健康リスクに対する塗料の目標基準〈暫定値〉

目標値		評価結果
塗料設計条件	エマルジョン塗料	水性エバーロック
TVOC*	1%以下	適合
芳香族系溶剤	0.1%以下	適合
アルデヒド類	0.01%以下	適合
重金属類(鉛、クロム等)	0.05%以下	適合
発がん性物質 生殖毒性物質 変異原性物質	0.1%以下	適合
感作性物質	0.1%以下	適合

※全揮発性有機化合物

※(一社)日本塗料工業会「塗装設計・施工マニュアル」第2版より抜粋

ヤニ止め効果の目安



水性エバーロックのヤニ止め効果は水系塗料では最高レベルの水準にありますが、全てのヤニ、シミに対応できるわけではありません。左の色相がヤニ止め効果の目安です。但し、ヤニの種類や下地の状態などにより、ヤニ止め効果が減少する場合がありますので、あらかじめ確認の上施工してください。



ビニルクロス面の塗り替えについて

これから塗ろうとしている屋内の壁面には、ビニルクロスが貼っているのですが…
様々な状況に応じて、ビニルクロス面の塗り替え方法をご提案いたします。

工 程	確 認 事 項	処 理 方 法
① 塗装条件	塗装場所の環境を確認する。	
	1. 塗装場所の被塗面および気温が5℃以下、湿度が85%以上の場合。 2. 被塗面が結露している。 3. 塗装後2～3時間以上は、気温を5℃以上保てない。	塗装を見合わせる。
	4. 塗装場所の窓、扉など	塗装時および乾燥中は、開放して換気を十分に行う。
	被塗面以外は汚さないように、マスキングテープ、ビニルシートで養生する。(スイッチ器具など、取り外しできるものは予め外しておく。)	
② 養生	1. 生活油などによりマスキングテープが付きにくい。	中性洗剤、溶剤を用いて、汚れを十分に落とす。
	2. 入隅などマスキングテープが剥がれやすい。	プラスチックヘラなどを用いて、十分に圧着する。
③ 下地処理	ビニルクロス面の状況を確認する。(仕上がりに大きく影響するため、入念に行う。)	
	1. 剥がれ	エマルションボンドを塗り付けて、圧着する。
	2. 浮き	目立たないようにカッターナイフで切り込みを入れ、エマルションボンドを塗り付け圧着する。
	3. 破れ、キズ (補修範囲が小さい場合) (補修範囲が大きい場合)	エマルションパテを用いて充填補修する。 同種のビニルクロスで部分的に張替補修する。
	注) ・圧着時、ボンドやパテがはみ出た場合は、ウエス等できれいに拭き取る。 ・継ぎ目や入隅部分は、見にくく剥がれている場合が多いので、ヘラなどで剥がれているか確認する。 (塗装後乾燥工程で発生することがあるので注意する。) ・部分張替補修は、その部分より少し大きく切った同種のビニルクロスを補修面に当て、その上からカッターナイフで切り込みを入れる。 ・ビニルクロスと他部材との取り合い部などで隙間がある場合は、シーリング材で充填補修する。	
	4. ヤニ汚れ〔ヤニ止め効果の目安参照〕 (規定以下の場合) (規定以上の場合)	中性洗剤を用いて除去後、ウエス等で水拭きを十分に行う。 規定以下の場合の処理方法と同じであるが、十分に落ちない場合、ロックカチオンシーラーマルチ ホワイトなどで下塗り塗装を行う。(十分に乾燥させる。)
	5. 水性汚れ	中性洗剤を用いて除去後、ウエス等で水拭きを十分に行う。
	6. 油性汚れ	溶剤拭きを行う。
	7. カビ汚れ	軽微なカビは漂白剤を使用し、水拭き後防カビ剤を散霧する。(漂白剤使用時は換気を十分に行う。)
	8. 木部	P180研磨紙ざりを行う。
④ 塗 装	・下地が十分に乾燥していることを確認する。 ・各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を厳守する。(但し、模様による凹凸が大きい場合は、塗付量が少し増える場合がある。) ・入隅のハケ、ローラーの境目は、できるだけ奥までローラーで塗装する。 ・木部は、下地によりムラが生じやすいので注意する。	
	1. 補修塗りが必要な場合	同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行う。(余った塗料は残しておく。)
	2. ヤニ汚れ、水性汚れが著しい場合	希釈を少なめにし、1回目を塗装してから十分な乾燥時間(23℃で約6時間)をとった後、2回目に塗装を行う。
⑤ 養生撤去	塗装面に注意して撤去する。 ・マスキングテープやビニルシートが、塗装面や非塗装面に付かないように撤去する。 ・マスキングテープの除去は、必要に応じて際に切り込みを入れながら行う。	

※その他、施工上の要点・注意事項ならびに安全衛生上及び取扱上の注意を参照してください。



用途

戸建住宅、集合住宅、病院、教育施設、公共施設、店舗、事務所、工場などの屋内外壁、天井、建具、ドア、窓枠

適応素地 コンクリート、モルタル、スレート、各種ボード、屋内木部、ビニルクロス

適応旧塗膜 AEP(EP)、つや有りエマルジョンペイント、リシン、スタッコ

製品要綱

標準塗付量 (kg/m ² ・回)	0.11~0.13	
希 釈 剤	水	
希釈割合 (重量%)	ハケ・ローラー	2~10
	エアレス	5~15

標準塗装回数	2
指触乾燥時間(23℃)	30分
半硬化乾燥時間(23℃)	2時間
塗り重ね可能時間(23℃)	2時間以上

※塗料の乾燥時間は、室内の気温、湿気および換気によって変わります。

標準塗装仕様

[コンクリート、モルタルなどの平滑面]

工 程	使用塗料	希 釈 剤	塗装方法、希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² ・回)	塗り重ね可能時間 (23℃)
素地調整	新設のコンクリート、モルタル面は、含水率10%以下、pH9.5以下になるまで十分乾燥させ、エフロセシンス、レイトンス、ゴミ、汚れなどを完全に除去する。塗り替えの場合、旧塗膜の浮き、はがれ、汚れ、カビ、チョーキングなどは、皮スキ、ワイヤーブラシなどのケレン具で除去し、乾いた清浄な面とする。 吸い込みの著しい素地や脆弱な素地の場合、ロックカチオンシーラーマルチⅢなどで素地固めを行う。					
下塗り	092ライン 水性エバーロック 指定色	水	ハケ・ローラー：2~10% エアレス：5~15%	1	0.11~0.13	2時間以上
上塗り	092ライン 水性エバーロック 指定色	水	ハケ・ローラー：2~10% エアレス：5~15%	1	0.11~0.13	2時間以上

※仕様の数値は標準的な塗装を行う際のもので、塗装時のロスを考慮にいたした数値です。素地の状態、天候、塗装方法などによって異なる場合があります。

※軒天がリシン仕上げなどの場合は塗装時のロスが大きく、塗料の使用量が上記塗付量の約40~50%増しになる場合があります。

性状表

(水性エバーロック ハイホワイト)

項 目	規 格	試験結果
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様になるものとする。	合格
塗 装 作 業 性	2回塗りで、塗装作業に支障があってはならない。	合格
低温安定性(-5℃)	変質してはならない。	合格
乾燥時間 h	標準状態	2以下
	5℃	4以下
塗 膜 の 外 観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合格
隠 ぺ い 率 %	93以上(白及び淡彩)	合格
耐 水 性	96時間浸したとき異常がないものとする。	合格
耐 アルカリ性	48時間浸したとき異常がないものとする。	合格
耐 洗 浄 性	500回の洗浄に耐えるものとする。	合格
促進耐候性	白亜化の等級は1以下で膨れ、はがれ及び割れがなく、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合格
屋外暴露耐候性	12ヵ月の試験で、膨れ、はがれ及び割れがなく、色の変化と白亜化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合格

品種と容量

品 番	色 名	容 量
092-0200	ハイホワイト	16kg
092-0005	オキサイドレッド	4kg
092-0014	レッド	4kg
092-0019	ハイエロー-2	4kg
092-0025	ブラック	4kg
092-0030	オーカー	4kg
092-0032	ブルー	4kg

関連下塗り塗料

品 番	製 品 名	容 量
033-1701	ビニロックV.O-Ⅱシーラー	15kg
033-1179	ロックカチオンシーラーマルチⅢ	15kg
033-1160	ロックカチオンシーラーマルチ ホワイト	15kg

調 色

水性エバーロック原色または、ロックトーンカララント7000(ベースの7%以内)を使用してください。

◆施工上の要点・注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分などの汚れやはがれがあった塗膜はよく取り除き、乾いた清浄な面にしてください。(含水率10%以下、pH9.5以下)
- 気温または躯体温度が5℃以下の場合や湿度85%以上の場合、並びに被塗面が結露しているとき、また塗装後2~3時間以上気温が5℃以上を保てない場合の塗装は避けてください。造膜不良の原因となるばかりか十分な塗膜性能が発揮されないことがあります。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装は避けてください。
- 塗膜が完全に乾燥する前に、降雨、結露等がありますと、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- 絶えず結露が発生するよう用途、場所での使用は避けてください。
- 改修塗装の場合、素地の種類によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い、試し塗りを行った後、仕様を決めてください。
- 吸い込みが激しい面には、ロックカチオンシーラーマルチⅢなどを下塗りしてください。また、けい酸カルシウム板に塗装する場合も、ロックカチオンシーラーマルチⅢなどを下塗りしてください。ただし、素材、劣化度合いにより、付着不良を起こす場合がありますので試し塗りをした上で、本塗装を行ってください。
- クリヤー分が浮いている場合がありますので、使用する前に塗料を底から十分によくかき混ぜて、均一な状態にしてください。
- 各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、塗膜不良となることがあります。また、各工程において、当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- 塗装時および塗装後は換気をよくしてください。密閉した室内では乾燥が遅くなります。また、水のかかる場所では塗装後換気を良くし、24時間以上(23℃の場合)乾かしてからご使用ください。(常時水のかかる場所には塗装できません。)
- 飛散防止のため、必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 塗料は5℃以上40℃以下の温度で保管してください。氷点下で貯蔵しますと凍るおそれがあります。凍った場合は、常温で完全に溶かし、よく攪拌してから使用してください。塗料が凍ったままで攪拌や塗装することは避けてください。
- コンクリート、モルタル面に素穴や段差、ひび割れがある場合には、セメントファイラーで処理してください。
- せっこうボードなどに軽度の素穴や段差、ひび割れがある場合は、合成樹脂エマルジョンパテで処理してください。
- 室内で水のかかる箇所には、下地に合成樹脂エマルジョンパテを使用しないでください。セメントファイラー等をおすすめしますが、エプロレスセンサーが発生する場合がありますので養生期間は十分にとってください。
- 下地、旧塗膜が脆弱な場合、また素地が強アルカリ性であることが予想される場合は、弱溶剤型シーラーを使用してください。また改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合、旧塗膜によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをした上で本塗装を行ってください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良を起こしたり、表面が汚れてくる場合がありますので、試し塗りを行った後仕様を決めてください。

- 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ、ローラーの境目はできるだけ奥までローラーで塗装してください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗り場合は、同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 繊維質の壁や耐火被覆されているような表面が脆弱した被塗物には塗装できません。
- 室内の旧塗膜がアルキド樹脂系の場合は、塗り替える前に表面あらしを行ってください。
- シーラー塗装の場合は、塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすことがあるため、塗り重ね可能時間を守ってください。
- シーラー塗装は乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- 色相により、水滴などがかかるとぬれ色になることがあります。乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥した塗膜に付着した汚れは、シンナーなどで拭かず、中性洗剤で洗浄してください。
- 付着性の悪い素地への塗装は避けてください。
- 旧塗膜がつかや有り仕上げの場合、条件により適正がない場合がありますので、あらかじめ試し塗りをしてから施工してください。また、弾性系塗膜の塗り替えには使用できません。
- 水系塗料においては、ウエス等で強く擦ることで色が付着する場合があります。強く擦られることが考えられる部位への塗装は、なるべく避けてください。
- ヤニの付着が著しく、汚れがひどい場合には、中性洗剤を用いてできるだけヤニなどを除去し、十分乾燥させてから施工してください。
- ヤニ面に塗装する場合は希釈を少な目にし、1回目を塗装してから十分な乾燥時間(とり)23℃で約6時間)、2回目を塗装してください。
- 水性のシミやアク面は止まりにくい場合がありますので、水拭きを行い、十分乾燥させたくらみで塗装してください。
- ヤニ、シミが著しく、水拭きなどでも落ちない場合には、ロックカチオンシーラーマルチ ホワイトなどを下塗りに使用してください。
- ドアパッキンや緩衝材など可塑剤を含むプラスチック製品に乾燥した塗膜が接触したり、直接塗装を行ったりすると塗膜が軟化することがあります。そのような箇所への使用はできません。
- 使用後のハケなどの用具や、手に付いた塗料はできるだけ早く水で洗い落としてください。乾くと落ちにくくなります。
- この仕様はすべての工程においてホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を使用しています。F☆☆☆☆以外の材料(被塗物、素材も含む)を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合F☆☆☆☆仕様でなくなることがありますので注意してください。
- 上塗りに鮮やかなエロー系、レッド系、ブルー系、グリーン系の塗色で仕上げられる場合、塗膜の隠蔽性が弱い傾向にあるため、先に隠蔽性のよい共色(近似色)で下塗り塗装した後、上塗り塗装してください。

◆安全衛生上及び取扱上の注意

【製品の危険・有害性】

危険性のほとんどない製品ですが、目や呼吸器に入るとは避けてください。

【救急処置】

- 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

【取扱注意事項】

- 塗装中、乾燥中ともに換気をよくしてください。
- 取扱中は、できるだけ皮膚にふれないようにし、必要に応じて保護手袋、保護メガネ、保護マスクを着用してください。

- 取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行い、作業衣等に付着した汚れをよく落とし落としてください。
- よくふたをして直射日光を避け、5℃以上40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ってから破棄してください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。

【施工後の安全性について】

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立看板等を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接する事のないようにご配慮願います。

安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。



ロックペイント 株式会社

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2
TEL(03)3640-6000 FAX(03)3640-9000

札幌営業部 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48
TEL(011)812-2761 FAX(011)812-9304

仙台営業部 〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代2-3-11 渡正ビル201
TEL(022)349-8677 FAX(022)283-3255

西関東営業部 〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本1-15-16
TEL(042)700-3111 FAX(042)700-3112

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47
TEL(06)6473-1650 FAX(06)6473-1000

名古屋営業部 〒454-0059 名古屋市中川区福川町1-1
TEL(052)351-6500 FAX(052)361-7433

岡山営業部 〒701-1134 岡山市北区三和1000番34
TEL(086)294-1201 FAX(086)294-6966

福岡営業部 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1
TEL(092)962-0661 FAX(092)963-1241

URL <http://www.rockpaint.co.jp>

●本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。